

大野城市  
シティプロモーションビジョン

令和2年3月  
大野城市



# 目 次

## 第1章 基本構想

1. はじめに	1
(1)趣旨	1
(2)位置づけ	2
(3)計画期間	2
2. 現状分析と大野城市の特徴	3
(1)大野城市の概要	3
(2)現状分析	4
(3)大野城市の特徴(まとめ)	15
3. 大野城市のシティプロモーションの考え方	16
(1)大野城市のシティプロモーションとは	17
(2)シティプロモーションの進め方と目標	18
(3)3つの基本方針	19

## 第2章 基本構想の具体化に向けて

1. アクションプランの策定	20
2. 取り組みの方向性	21

第3章 資料	23
--------	----



# 第1章 基本構想

## 1. はじめに

### (1)趣旨

「シティプロモーション」とは、一般的には、「観光客増加・定住人口獲得・企業誘致などを目的として、地域のイメージを高め、知名度を向上させる活動<sup>※1</sup>」や、「自らの地域のイメージを高め経営資源の獲得を目指す活動<sup>※2</sup>」などと定義されています。

大野城市は、平成 29(2017)年の「シティブランド・ランキング -住みよい街 2017-」<sup>※3</sup>において全国 1 位となるなど、市内外の多くの人から「選ばれるまち」としての評価を受けているところです。

全国の各自治体において、少子高齢化の進展に伴う人口減少への対策や、人口の東京一極集中の是正に向けた取り組みなどが行われています。そうしたなかで、大野城市の魅力や良いイメージなどを市内外に広め、これからも大野城市のファンを増やしていくために、将来を見据えたシティプロモーション関連施策の実施が必要となっており、本ビジョンにおいて、現状分析を通じた大野城市のシティプロモーションの考え方と基本方針について示すこととします。

※1:産業能率大学ホームページから抜粋

※2:シティプロモーション自治体等連絡協議会ホームページから抜粋

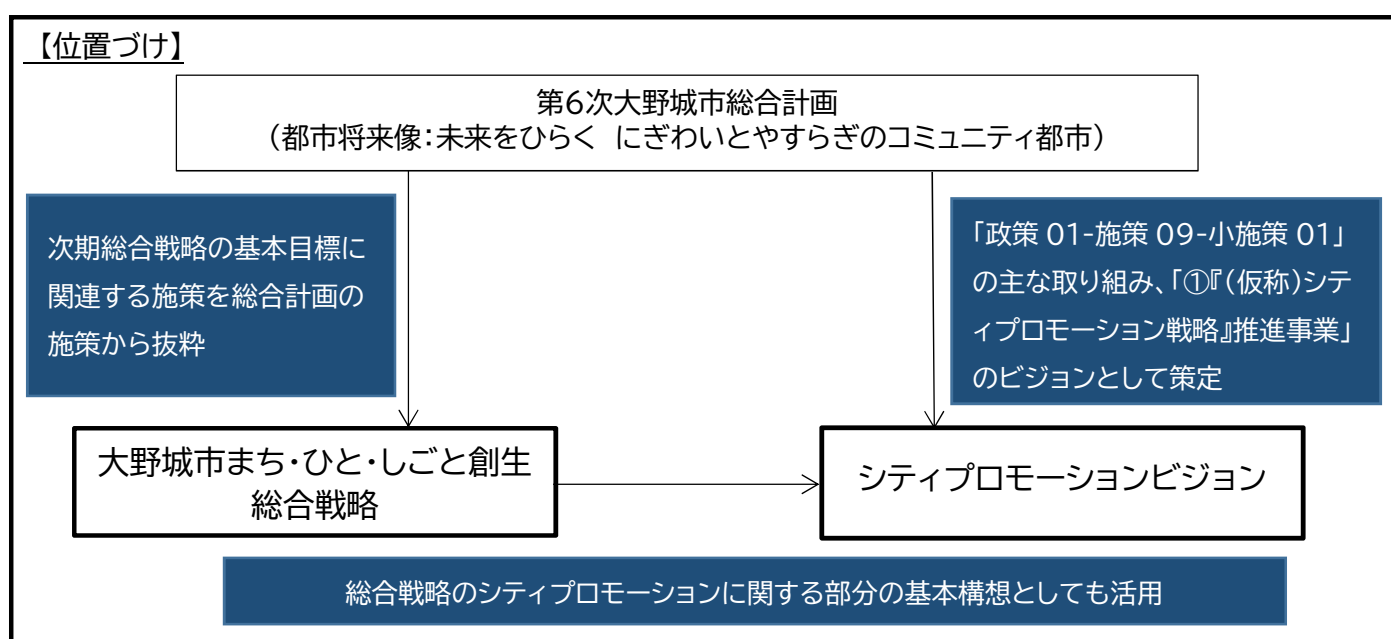
※3:日経 BP 社「新・公民連携最前線」のシティブランド調査(平成 29(2017)年)による

## (2)位置づけ

大野城市では、「第6次大野城市総合計画」(計画期間:平成31(2019)年~令和10(2028)年)において、10年後の目指すべき都市将来像と、その実現のための全ての取り組みを明らかにしています。

本ビジョンは、「第6次大野城市総合計画」中の、「政策 01-施策 09-小施策 01」の主な取り組みである、「①『(仮称)シティプロモーション戦略』推進事業」のビジョンとして位置づけています。

また、「大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の、シティプロモーションに関する部分の基本構想としても位置づけています。



## (3)計画期間

本ビジョンの計画期間は、令和2(2020)年度を初年度とし、「第6次大野城市総合計画」との整合性を図り、令和10(2028)年度までとします。

## 2. 現状分析と大野城市の特徴

### (1)大野城市の概要

大野城市は、東経 130 度 28 分、北緯 33 度 32 分に位置し、福岡市の南側に隣接しています。市域は東西約 6 キロメートル、南北約 8.5 キロメートルで、面積は 26.89 平方キロメートルです。市の中心部の幅は約 1 キロメートルしかなく、ひょうたん型をしています。

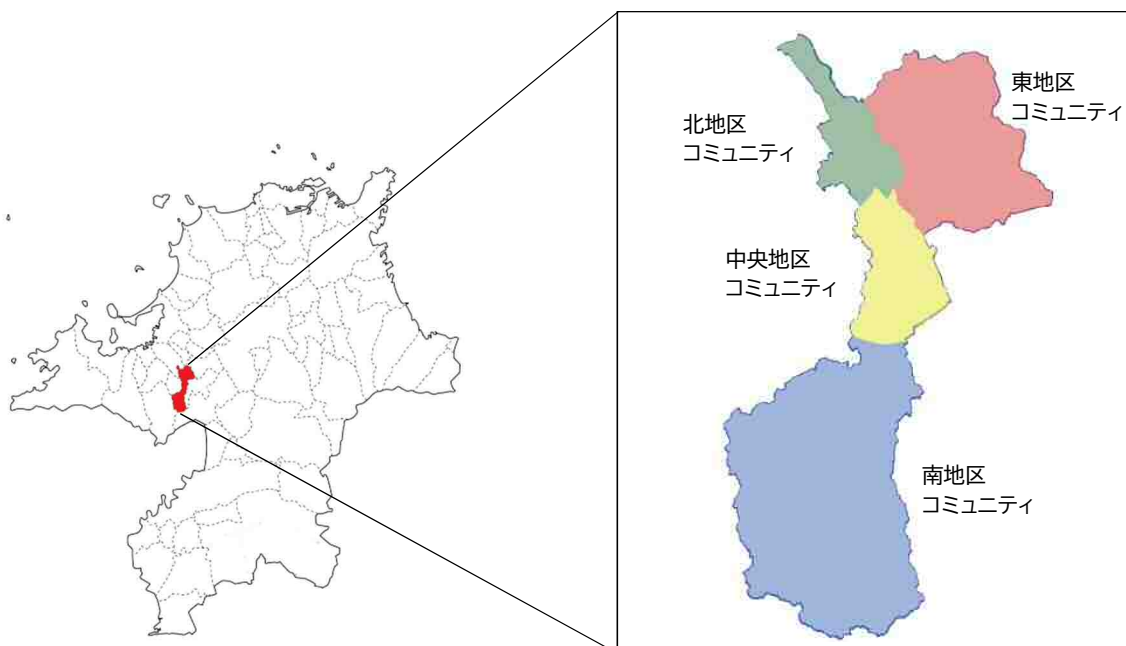
大野城市の名称は、天智 4 年(665 年)、大野山(現在の四王寺山)に築いた日本最古の山城「大野城跡」に由来します。また、北東部には四王寺山や乙金山、南部と南西部には背振山地の牛頸山を中心とする小連山があり、都市部としては貴重な緑がまだまだ残されています。また、市域の 50% を占める平坦な中心部は、博多湾へとつながる御笠川と牛頸川の合流地点にもなっています。

市域内には九州の交通動脈である国道 3 号、JR 九州の鹿児島本線、西鉄天神大牟田線などが南北に貫通するとともに、九州自動車道太宰府インターチェンジ、それに接続されている福岡都市高速道路や福岡空港にも近接していることから、福岡都市圏※でも交通の便に恵まれた地域となっています。

このような立地的特性を活かし、これまで、道路・上下水道・コミュニティバスの整備など、便利で住みよいまちづくりのためのインフラ整備を進めてきました。特に、昭和 40 年代や平成一桁代には大規模な住宅開発が行われ、人口が大きく増加しました。

また、昭和 40 年代の急激な人口増加を背景に、住民同士の融和を図ることを目的とした「まどか運動」を提唱し、地域ぐるみによるまちづくりを進めてきました。特に、南・中央・東・北の4地区においては、地区コミュニティが形成され、現在にわたり地域住民や各種団体などによる特色のあるまちづくりが行われています。

※福岡都市圏：福岡市と周辺の 16 市町(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市、古賀市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町、宗像市、福津市、糸島市)



## (2)現状分析

本ビジョンを策定するにあたり、人口や認知度などに関する基礎調査(実施期間:平成30(2018)年6月～平成31(2019)年2月)を実施しました。

### 【調査内容】

調査項目	概要
①交流人口※に関する分析 ※大野城市を訪れたり、大野城市で働いたりする人	◆大野城市の交流人口の数と、その発地(出発地)に関する分析 ◆通勤・通学による移動状況の分析
②定住人口に関する分析	◆定住人口増加の要因・実態分析 ◆住宅市場に関する分析 ◆福岡都心部へのアクセスに関する分析
③認知度に関する分析	◆ウェブアンケート(福岡都市圏住民対象) ◆住みやすさに関するアンケート(市民対象) ◆転出入に関するアンケート調査(転入・転出者対象)

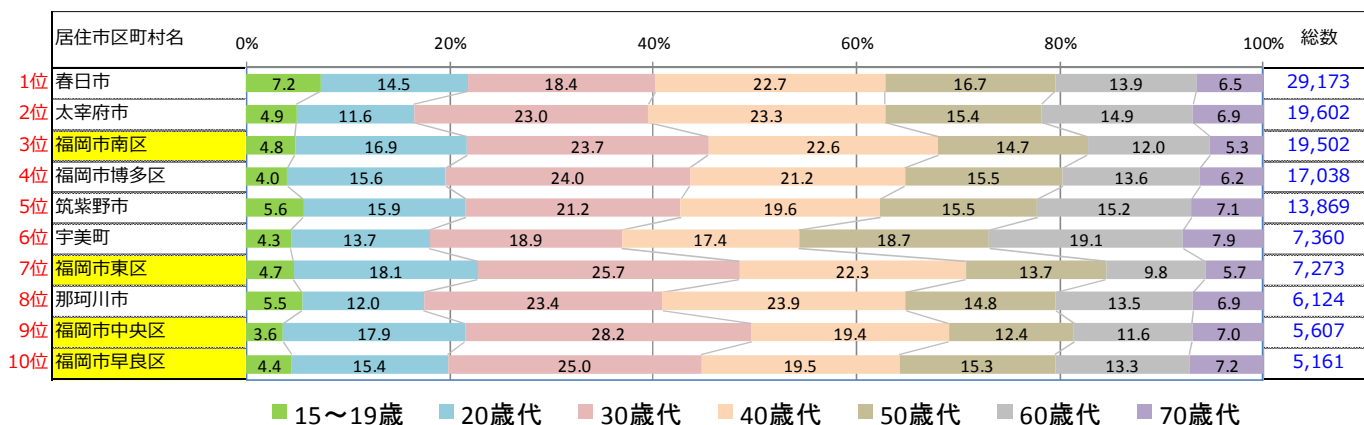
### 【調査結果概要】

#### ①交流人口に関する分析

大野城市を訪れる交流人口の数とその発地については、総数が多い順に、春日市、太宰府市、福岡市南区、福岡市博多区、筑紫野市となっており、近隣自治体からの訪問が多くなっています。

また、20～30歳代の構成割合が高いのは、福岡市中央区(46.1%)、福岡市東区(43.8%)、福岡市南区(40.6%)、福岡市早良区(40.4%)であり、近接する春日市(32.9%)・太宰府市(34.6%)・那珂川市(35.4%)よりも高くなっています。

#### ◆大野城市の交流人口(大野城市を除く上位10位まで。集計期間:平成27年9月～平成28年8月)



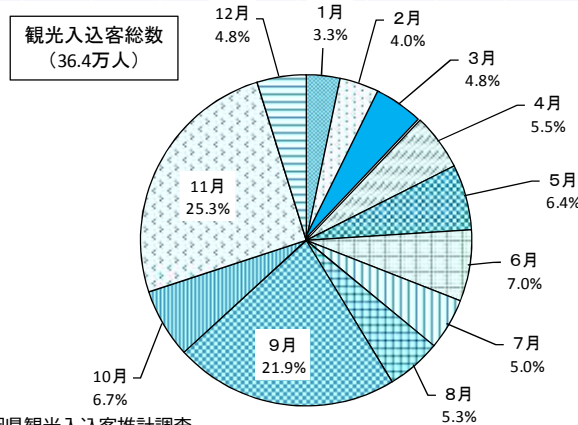
【資料】地域経済分析システム(RESAS)



大野城市への月別の入込客数(他自治体から観光地点および行祭事・イベントに訪れた人数)は、9月と11月が多くなっています。要因としては、9月の「おおの山城大文字まつり」、11月の「まどかフェスティバル」などの、大規模なイベントが開催されていることが考えられます。

◆大野城市への月別入込客数(平成28年度)

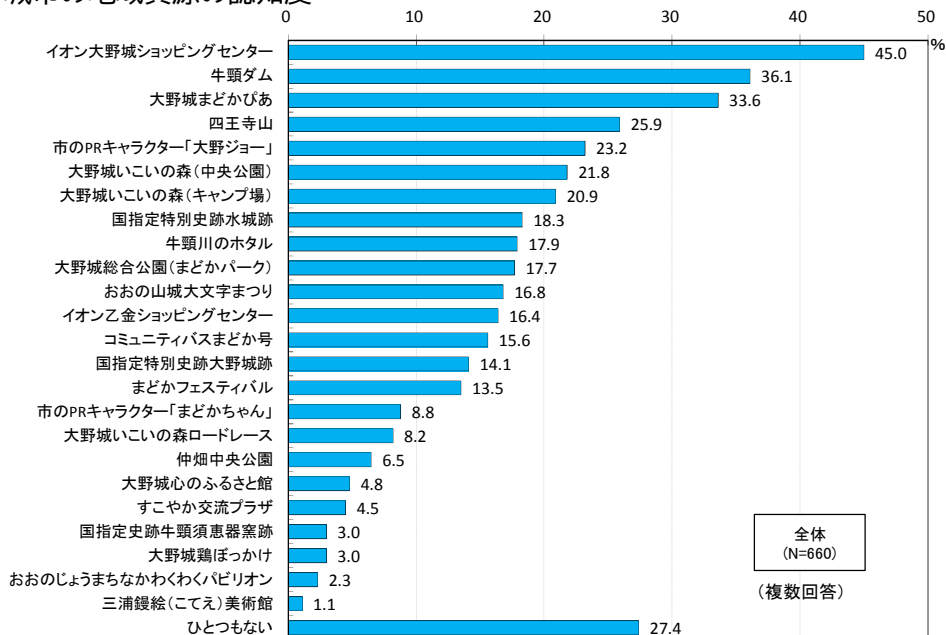
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入込客数(万人)	1.2	1.5	1.7	2.0	2.3	2.5	1.8	1.9	8.0	2.5	9.2	1.8	36.4
構成割合(%)	3.3	4.0	4.8	5.5	6.4	7.0	5.0	5.3	21.9	6.7	25.3	4.8	100



【資料】平成28年度福岡県観光入込客推計調査

福岡都市圏住民における大野城市の地域資源の認知度については、高い順に「イオン大野城ショッピングセンター」が45.0%、「牛頸ダム」が36.1%、「大野城まどかぴあ」が33.6%となっています。行祭事、イベントでは、「おおの山城大文字まつり(16.8%)」や「まどかフェスティバル(13.5%)」が高い認知度となっています。

◆大野城市の地域資源の認知度



【資料】ウェブアンケート(福岡都市圏住民対象、実施時期:平成30(2018)年7月)

通勤・通学による移動状況の分析としては、大野城市から福岡市への通勤・通学比率が40.5%で、福岡都市圏でも高い割合となっています。

一方、福岡市から大野城市への通勤・通学比率は0.8%となっています。

他市町から大野城市への通勤・通学者は、各市町における比率が高い順に、太宰府市(6.9%)、春日市(6.5%)、筑紫野市(3.7%)、宇美町(3.5%)、那珂川市(3.3%)となっています。

◆通勤・通学による移動状況の分析

常住地↓	通勤・通学地→		
	全体(人)	福岡市(%)	大野城市(%)
福岡市	706,284	87.7	0.8
東区	140,712	81.5	0.4
博多区	104,494	86.1	2.1
中央区	84,907	91.5	0.5
南区	117,849	85.7	1.6
西区	95,865	90.3	0.3
城南区	61,904	92.6	0.4
早良区	100,553	91.8	0.3
筑紫野市	51,435	28.8	3.7
春日市	55,981	44.1	6.5
大野城市	48,908	40.5	30.4
宗像市	47,430	18.4	0.1
太宰府市	33,561	32.2	6.9
古賀市	29,441	29.3	0.3
福津市	27,353	25.7	0.3
糸島市	50,344	43.2	0.2
那珂川市	24,935	44.2	3.3
宇美町	18,930	30.7	3.5
篠栗町	15,548	37.0	0.6
志免町	22,521	42.6	1.7
須恵町	13,669	31.7	1.4
新宮町	15,271	44.8	0.2
久山町	4,214	35.0	0.7
粕屋町	24,437	46.1	0.8

【資料】平成27年国勢調査

## ②定住人口に関する分析

人口増減の要因は、出生者数と死亡者数の合計による「自然増」と、転入者数と転出者数の合計による「社会増」の、大きく2つに分けられます。

大野城市の近年の人口増減数、自然増加数(率)、社会増加数(率)の推移は、下表のとおりとなっています。

全国的に少子化が進むなか、大野城市の自然増の推移は、年間で 1,100 人前後となっています。一方、社会増の推移は、転入と転出はほぼ拮抗してきており、社会増加率が人口に与える影響は小さくなっています。

### ◆大野城市の「自然増」および「社会増」の推移

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年	平成42年				
人口増減数	1,079	1,811	2,064	1,399	1,944	1,658	1,232	1,483	1,096	1,274	1,271	778	581	253	738	508	398	215	688	641	656	1,369	633	588	292	390	316	311
自然増加数	617	643	691	693	708	712	627	668	632	710	635	609	579	573	545	498	555	554	479	436	454	517	468	463	476	363	298	337
出生者数(+)	999	1,008	1,060	1,092	1,080	1,122	1,099	1,116	1,090	1,140	1,111	1,103	1,086	1,074	1,046	1,076	1,086	1,113	1,028	1,073	1,067	1,127	1,096	1,105	1,143	1,070	1,060	1,031
死亡者数(-)	382	365	369	399	372	410	472	448	458	430	476	494	507	501	501	578	531	559	549	637	613	610	628	642	667	707	762	694
社会増加数	462	1,168	1,373	706	1,236	946	605	815	464	564	636	169	2	-320	193	10	-157	-339	209	205	202	852	165	125	-184	27	18	-26
転入者数(+)	7,168	7,746	8,043	7,786	8,132	7,733	7,526	7,424	7,197	7,693	7,285	6,915	6,774	6,330	6,410	6,450	6,338	5,927	6,226	5,962	5,761	6,483	6,110	5,842	5,844	5,615	5,503	5,645
転出者数(-)	6,626	6,523	6,665	7,059	6,923	6,830	6,928	6,622	6,764	7,134	6,661	6,732	6,802	6,607	6,239	6,435	6,471	6,239	5,820	5,863	5,632	5,703	5,971	5,774	6,070	5,632	5,517	5,730
自然増加率	0.83	0.85	0.9	0.88	0.88	0.86	0.74	0.78	0.73	0.81	0.71	0.67	0.63	0.62	0.59	0.53	0.59	0.59	0.51	0.46	0.47	0.54	0.48	0.47	0.48	0.37	0.3	0.34
社会増加率	0.62	1.55	1.78	0.89	1.53	1.15	0.72	0.95	0.53	0.64	0.71	0.19	0	-0.4	0.21	0.01	-0.2	-0.4	0.22	0.22	0.21	0.88	0.17	0.13	-0.2	0.03	0.02	-0.03

※日本人のみ。

※転入・転出には「その他」があるため、社会増加数と一致しない場合がある。

【資料】住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(総務省)

なお、大野城市の「自然増」は県内でも高い状況にあります。増加数は福岡市に次ぐ 2 位、増加率は粕屋町、新宮町に次ぐ 3 位となっています。

### ◆県内の「自然増」に関する順位(平成 29(2017)年 10 月 1 日～平成 30 年(2018)年 9 月 30 日)

自然増加数(人)			自然増加率(%)		
順位	市町村	増加数	順位	市町村	増加率
1	福岡市	2,226	1	粕屋町	0.81
2	大野城市	387	2	新宮町	0.66
3	粕屋町	380	3	大野城市	0.39
4	新宮町	211	4	那珂川市	0.23
5	那珂川市	114	5	福岡市	0.14

【資料】平成 30 年福岡県の人口と世帯年報(福岡県)

大野城市への転入および大野城市からの転出の内訳については、いずれも福岡県内が最も多くなっているほか、九州各県や東京都なども多い傾向となっています。また、福岡県内においては、筑紫地区や福岡市南区・博多区が多い傾向となっています。

◆転入元内訳(平成30(2018)年)

	人数(人)	構成比(%)
北海道	20	0.35%
宮城県	19	0.33%
茨城県	12	0.21%
埼玉県	86	1.51%
千葉県	64	1.13%
東京都	194	3.41%
神奈川県	89	1.57%
石川県	17	0.30%
長野県	11	0.19%
静岡県	24	0.42%
愛知県	73	1.28%
京都府	17	0.30%
大阪府	114	2.01%
兵庫県	56	0.99%
岡山県	18	0.32%
広島県	76	1.34%
山口県	55	0.97%
香川県	25	0.44%
愛媛県	18	0.32%
高知県	10	0.18%
福岡県	3,558	62.63%
佐賀県	185	3.26%
長崎県	204	3.59%
熊本県	205	3.61%
大分県	140	2.46%
宮崎県	97	1.71%
鹿児島県	138	2.43%
沖縄県	55	0.97%
その他	101	1.78%
総計	5,681	100.00%



(福岡県の内訳詳細)

	人数(人)	構成比(%)
北九州市	174	4.89%
福岡市東区	186	5.23%
福岡市博多区	540	15.18%
福岡市中央区	194	5.45%
福岡市南区	315	8.85%
福岡市西区	88	2.47%
福岡市城南区	63	1.77%
福岡市早良区	123	3.46%
大牟田市	33	0.93%
久留米市	130	3.65%
直方市	11	0.31%
飯塚市	47	1.32%
田川市	12	0.34%
八女市	14	0.39%
筑後市	23	0.65%
行橋市	18	0.51%
小郡市	50	1.41%
筑紫野市	206	5.79%
春日市	539	15.15%
宗像市	40	1.12%
太宰府市	301	8.46%
古賀市	12	0.34%
福津市	22	0.62%
嘉麻市	10	0.28%
朝倉市	39	1.10%
糸島市	26	0.73%
那珂川市	76	2.14%
宇美町	66	1.85%
篠栗町	17	0.48%
志免町	33	0.93%
須恵町	22	0.62%
新宮町	19	0.53%
粕屋町	30	0.84%
筑前町	13	0.37%
その他市町村	66	1.85%
福岡県計	3,558	100.00%

【資料】住民基本台帳人口移動報告(総務省)

◆転出先内訳(平成30(2018)年)

	人数(人)	構成比(%)
北海道	25	0.40%
宮城県	14	0.22%
茨城県	21	0.34%
埼玉県	64	1.02%
千葉県	96	1.54%
東京都	344	5.50%
神奈川県	133	2.13%
石川県	10	0.16%
福井県	10	0.16%
岐阜県	13	0.21%
静岡県	30	0.48%
愛知県	84	1.34%
滋賀県	17	0.27%
京都府	39	0.62%
大阪府	171	2.73%
兵庫県	60	0.96%
岡山県	21	0.34%
広島県	64	1.02%
山口県	94	1.50%
香川県	19	0.30%
愛媛県	13	0.21%
福岡県	3,688	58.97%
佐賀県	258	4.13%
長崎県	219	3.50%
熊本県	254	4.06%
大分県	103	1.65%
宮崎県	88	1.41%
鹿児島県	169	2.70%
沖縄県	70	1.12%
その他	63	1.01%
総計	6,254	100.00%

(福岡県の内訳詳細)

	人数(人)	構成比(%)
北九州市	178	4.83%
福岡市東区	159	4.31%
福岡市博多区	505	13.69%
福岡市中央区	183	4.96%
福岡市南区	335	9.08%
福岡市西区	81	2.20%
福岡市城南区	69	1.87%
福岡市早良区	93	2.52%
大牟田市	42	1.14%
久留米市	130	3.52%
直方市	16	0.43%
飯塚市	19	0.52%
田川市	15	0.41%
柳川市	15	0.41%
八女市	14	0.38%
筑後市	17	0.46%
豊前市	17	0.46%
小郡市	61	1.65%
筑紫野市	281	7.62%
春日市	522	14.15%
宗像市	29	0.79%
太宰府市	292	7.92%
古賀市	37	1.00%
福津市	49	1.33%
宮若市	10	0.27%
朝倉市	25	0.68%
糸島市	35	0.95%
那珂川市	62	1.68%
宇美町	64	1.74%
篠栗町	10	0.27%
志免町	47	1.27%
須恵町	48	1.30%
粕屋町	53	1.44%
筑前町	23	0.62%
大刀洗町	14	0.38%
苅田町	26	0.70%
みやこ町	10	0.27%
その他市町村	102	2.77%
福岡県計	3,688	100.00%



【資料】住民基本台帳人口移動報告(総務省)

住宅市場に関する現状について、不動産業者に聞き取りを行ったところ、下表のとおりの結果となりました。

内容については、交通アクセスの良さなどの利点から、福岡市の住み替え需要の一定の受け皿となっているなどという評価がある一方、ブランド力が低く、魅力あるまちにするために、どのようなイメージをアピールしていくのか、明確にする必要があるとの指摘も受けています。

◆不動産業者ヒアリング結果(概要)

デベロッパーA社	・福岡市内だと、新築では6,000万円は下らない。再開発が終わった乙金地区の新築は3,500万円～4,000万円が相場。 <b>家が欲しいが、福岡市内では購入が難しいという場合は、大野城市の物件を薦める。</b>
ハウスメーカーB社	・大野城市はJRや西鉄からのアクセスが良いため、人気のエリアである。 <b>駅から何分の場所に、どの程度の家を建てるかという想定がしやすいのかもしれない</b> (距離感と購入費用の設定)。
不動産(賃貸)仲介業C社	・駅前には価格帯高めの分譲マンションが多く、入居できるのは富裕層中心になるため、 <b>環境が良いというイメージができつつあり</b> 、全体的に大野城市の評価を高めているように感じられる。 ・ <b>ファミリー世代の一番の問題は、子どもの学区。</b> 大野城市では学力も上がってきているという話も聞く。
不動産(戸建)仲介業D社	・大野城市は戸建ての需要が高い。 <b>JR、西鉄、太宰府ICなど交通利便性が高く、通勤アクセスが良い。</b> 博多や天神に勤めている人だけでなく、久留米や小郡に通勤する人も多い。 <b>スーパーやショッピングセンターも多く、生活利便性も高い。</b> ・大野城市は利便性が高い割に土地代が安い。一見良いことのように思えるが、賃料が安いということは「資産価値(ブランド力)」が低いということ。 <b>魅力あるまちにするために、どのようなイメージをアピールしていくのか、明確にする必要がある</b> のではないかと。
不動産(戸建)仲介業E社	・ <b>戸建ての需要は高いが、供給量が全く追いついていない。</b> そのため物件が出るとすぐ売れてしまう。平野台や南ヶ丘は10～15年後には相当数の空きが出てくるが、ここを中心にリフォーム市場が形成され供給量が増えるため、 <b>今後も大野城市の人气が下がるとは思わない。</b>

【資料】不動産業者ヒアリング(実施時期:平成30(2018)年9～10月)

福岡都市圏の各市役所などと比較した福岡都心部へのアクセスに関する分析です。

大野城市役所から西鉄福岡(天神)駅への移動は、「車での移動」の場合 10.2 キロで 12 位、「公共交通機関での移動」の場合 13 分で8位となっています。

また、大野城市役所から JR 博多駅への移動は、「車での移動」の場合 8.5 キロで 10 位、「公共交通機関での移動」の場合 13 分で6位となっています。

鉄道駅に近接している交通アクセスの利便性や、福岡都心部に近い地理的な優位性が明らかとなっています。

◆西鉄福岡(天神)駅への移動

○車での移動

順位	発地	扣数
4位	城南区役所	3.5
5位	東区役所	4.0
6位	南区役所	4.3
7位	早良区役所	5.2
8位	西区役所	7.6
9位	糟屋郡粕屋町役場	8.7
10位	糟屋郡志免町役場	9.1
11位	春日市役所	9.9
12位	大野城市役所	10.2
13位	那珂川市役所	11.5
14位	大野城市中央コミュニティセンター	11.9
15位	糟屋郡須恵町役場	12.0

○公共交通機関での移動

順位	発地	分
4位	南区役所	7
5位	東区役所	9
6位	早良区役所	10
7位	城南区役所	12
8位	大野城市役所 春日市役所	13
10位	西区役所	14
11位	大野城市中央コミュニティセンター	20
12位	筑紫野市役所	21
13位	大野城市東コミュニティセンター	23
14位	糟屋郡粕屋町役場	27
15位	太宰府市役所	31

◆JR 博多駅への移動

○車での移動

順位	発地	扣数
3位	中央区役所	3.5
4位	東区役所	3.9
5位	南区役所	3.9
6位	城南区役所	5.6
7位	糟屋郡粕屋町役場 糟屋郡志免町役場	6.9
9位	早良区役所	7.7
10位	大野城市役所 春日市役所	8.5
12位	大野城市北コミュニティセンター	9.2
13位	糟屋郡須恵町役場	9.8
14位	大野城市中央コミュニティセンター	9.9
15位	西区役所	10.1

○公共交通機関での移動

順位	発地	分
4位	福岡市役所	6
5位	中央区役所	8
6位	大野城市役所 春日市役所	13
8位	東区役所	14
9位	糟屋郡粕屋町役場	15
10位	早良区役所	16
11位	大野城市中央コミュニティセンター	19
12位	西区役所	20
13位	筑紫野市役所	21
14位	糟屋郡新宮町役場 糟屋郡篠栗町役場	22
16位	大野城市東コミュニティセンター	23
17位	城南区役所	25

【資料】Google マップ

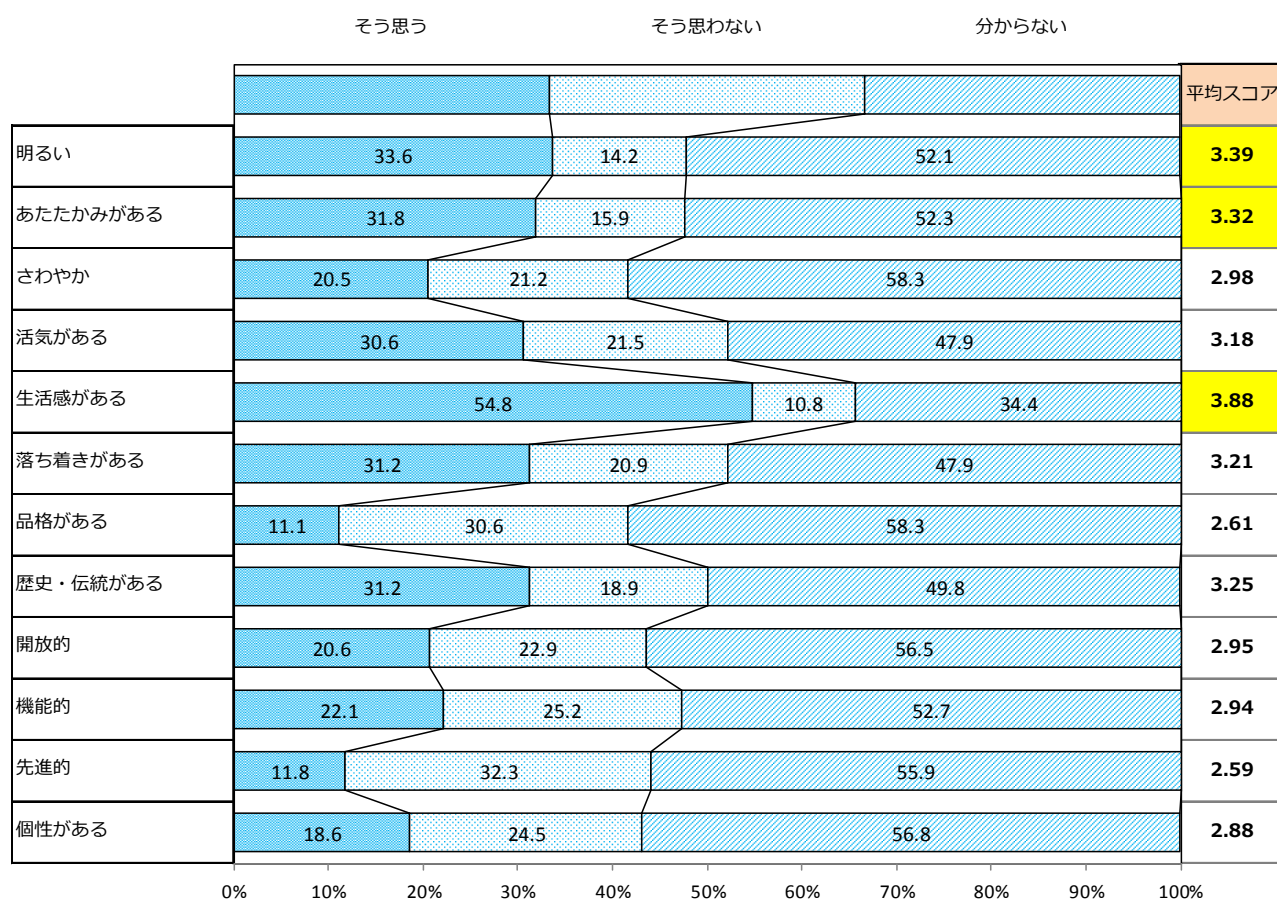
※車での移動は3キロ未満、公共交通機関での移動は5分未満の地点を除く。

※公共交通機関での移動は、最寄りの鉄道駅もしくはバス停留所からの移動時間としている。

### ③認知度に関する分析

福岡都市圏住民における大野城市のイメージについて、「生活感がある」「明るい」「あたたかみがある」などが中心となっており、最も高い結果となったのは「生活感がある」という項目です。

#### ◆大野城市に対するイメージ(N=660)



(注) 平均スコアは「そう思う」5点、「わからない」3点、「そう思わない」1点を付与して加重平均した。

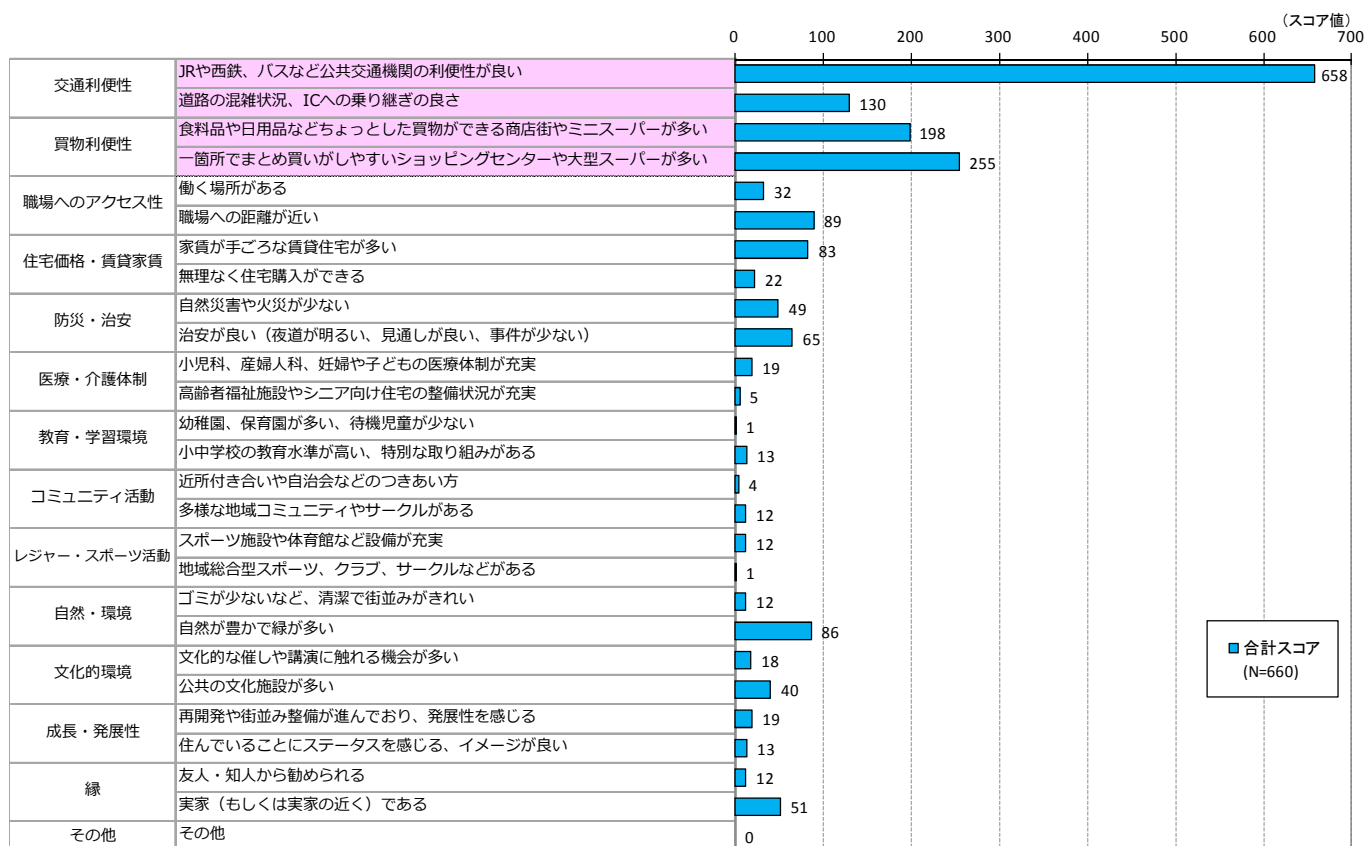
【資料】ウェブアンケート(福岡都市圏住民対象、実施時期:平成30(2018)年7月)



また、福岡都市圏住民に「大野城市に住んでみたいと思う理由」を尋ねたところ、「交通利便性」や「買物利便性」が高く評価されています。

生活に密接に関連する項目の割合が高く、大野城市の利点として、「生活利便性」という点が一般的に広く浸透していることがわかります。

### ◆大野城市に住んでみたいと思う理由



「JRや西鉄、バスなど公共交通機関の利便性が良い」がもっとも高く、次いで「一箇所でまとめ買いがしやすいショッピングセンターや大型スーパーが多い」、「食料品や日用品などちょっとした買物ができる商店街やミニスーパーが多い」「道路の混雑状況、ICへの乗り継ぎの良さ」など、交通利便性、買物利便性の良さが評価されている。

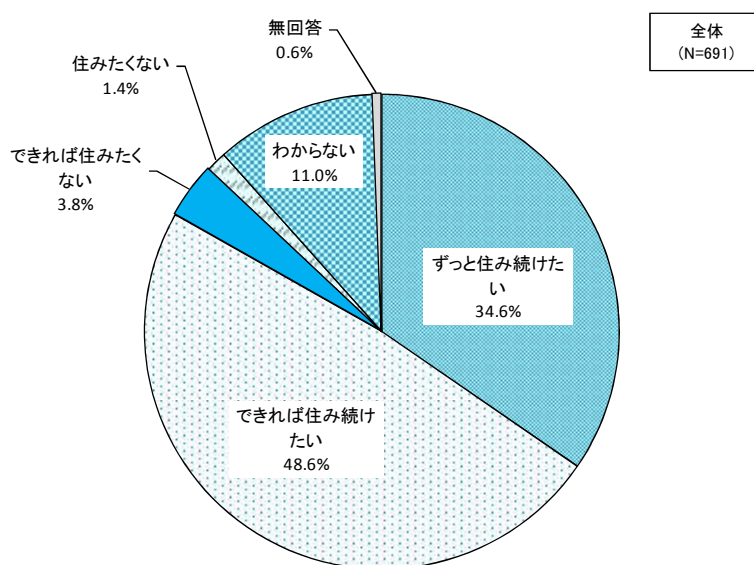
【資料】ウェブアンケート(福岡都市圏住民対象、実施時期:平成30(2018)年7月)

市民を対象にしたアンケートでは、大野城市への継続居住意向を尋ねたところ、「ずっと住み続けたい」が 34.6%、「できれば住み続けたい」が 48.6%で、その合計は8割を超えています。

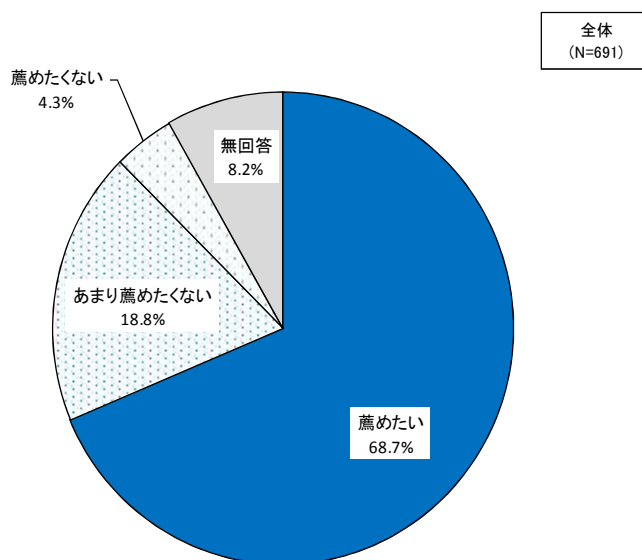
また、大野城市への転入を他の人に薦めたいかについても、「薦めたい」が約7割を占めている一方で、「あまり薦めたくない」「薦めたくない」という回答も2割を超えている状況です。

なお、大野城市に住むことを「あまり薦めたくない」「薦めたくない」と回答した人でも、その半数以上は「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」と回答しています。このことから、このまちに住むことを、「他の人にも薦めたい」と思ってもらえるような取り組みが必要となっています。

#### ◆大野城市への継続居住意向



#### ◆大野城市の推薦度



【資料】住みやすさに関するアンケート(市民対象、実施時期:平成30(2018)年9月)

### (3)大野城市の特徴(まとめ)

大野城市の概要や、基礎調査から分析される大野城市の「魅力(強み)」「課題(弱み)」について、以下のとおり整理します。

<b>大野城市の 魅力(強み)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆福岡市に隣接しており、大都市中心部へのアクセス性が非常に良い。</li><li>◆公共交通機関や主要道・インターチェンジなどに恵まれており、交通の利便性が高い。</li><li>◆日本最古の山城「大野城跡」をはじめとした、歴史資源に恵まれている。</li><li>◆都市部にもかかわらず、豊かな自然が残っている。</li><li>◆地区コミュニティを基本とした、市民主体のまちづくりが継続的に進められている。</li><li>◆市内外の多くの人に認知されている地域資源がある。</li><li>◆人口の自然増加数(率)が県内でも有数の高さである。</li><li>◆福岡市と比較し不動産価格が安価であり、一定程度の住み替え需要がある。</li><li>◆市内外の住民に、「交通・買い物などの生活の利便性が高いまち」というイメージを持ってもらっている。</li><li>◆「このまちに住み続けたい」と考えている市民が多い。</li></ul>
<b>大野城市の 課題(弱み)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆年々、社会増加数(率)が減少している。</li><li>◆大野城市を特徴づける「ブランド」の確立が不十分である。</li><li>◆大野城市の良いイメージなどを、市内外に十分に発信できていない。</li><li>◆一定数の市民が、「このまちに住むことを他の人に薦めたくない」と考えている。</li></ul>

### 3. 大野城市のシティプロモーションの考え方

大野城市の特徴の整理から、大野城市におけるシティプロモーションの考え方などを、以下のとおり整理します。

#### 大野城市のシティプロモーションとは

大野城市の魅力などを市内外に積極的に発信していくとともに、多くの人に、このまちとこの地域を「心のふるさと<sup>※</sup>」と感じてもらえるような取り組みを進めていくこと

#### シティプロモーションの進め方と目標

「定住促進の好循環」の確立  
(「関係人口」「交流人口」「定住人口」などの増加)

#### 基本方針

1. 魅力を伝える ～情報発信力の強化に向けて～
2. 「心のふるさと・大野城」を感じる ～ふるさと意識の醸成に向けて～
3. 「まち」と「ひと」をつなぐ ～地域資源を活かして～

#### ※「心のふるさと」とは

「大野城心のふるさと館」の建設にあたり、平成26年に策定した「(仮称)大野城心のふるさと館基本計画」では、「ふるさと」や「ふるさと意識」という言葉の定義を、以下のとおり整理しています。

生まれ育った所、移り住んだ所、心の拠り所を「ふるさと」と呼んでいます。また、「ふるさと意識」とは、郷土愛、愛郷心、身近な人や自然への愛着などを意味しています。

大野城市に生まれ育ってきた人だけでなく、転入されてきた人や、また転出されていた人たちにも、このまちに住むことによって芽生えた、このまちに対する郷土愛や愛郷心。そうした、一人一人の心の中の「ふるさと意識」によって、醸成されていく「心の拠り所」としての「ふるさと」を、「心のふるさと」と定義しています。

### (1)大野城市のシティプロモーションとは

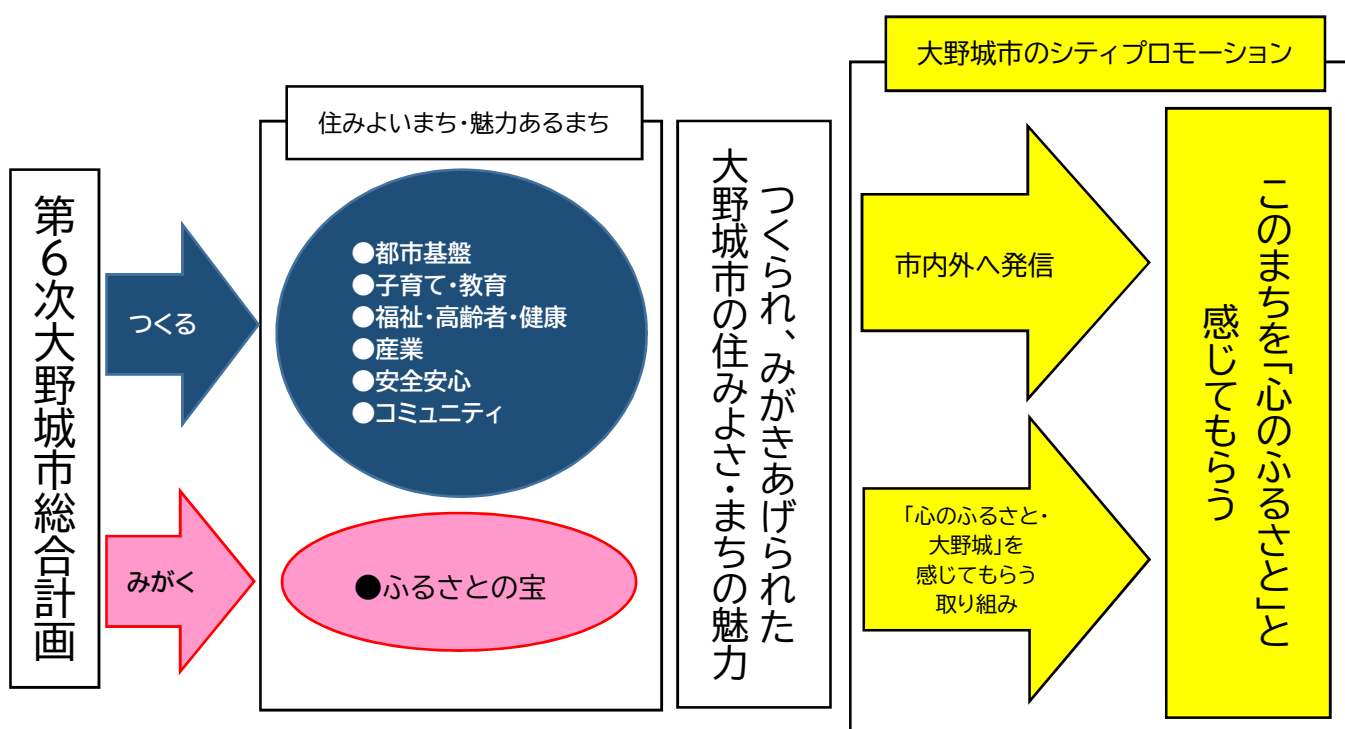
大野城市は、大都市である福岡市に隣接し、主要道路や鉄道交通などに恵まれる「地の利」を活かしながら、これまで総合計画に基づいて、住環境の改善に向けた都市基盤整備、住民サービス向上のための取り組み、さらには地域コミュニティ施策などを計画的に進めてきました。

また、市内には、日本最古の山城「大野城跡」をはじめとした貴重な歴史資産や、市域の南北を中心に広がる豊かな自然環境、まちのにぎわいを生み出す観光や商工業の資源など、「人・歴史・自然・文化・産業」といった魅力的な「ふるさとの宝」が存在しており、これらをみがきあげる取り組みも進めてきました。

市制施行以来、一貫した人口増加を実現してきたことは、このようにしてつくられてきた「大野城市の住みよさ」や、みがきあげられてきた「まちの魅力」などを、市内外の多くの人に認識・実感してもらった結果のひとつであると考えます。

これから大野城市が進めていくシティプロモーションにおいては、このような「大野城市の住みよさ」や「まちの魅力」などを「強み」と位置づけ、これらを市内外に向けて発信していくことが重要となります。そして、このまちに住む人が、「これからもずっと住み続けたい」「他の人や、市外に住む人にもこのまちを薦めたい」と思ってもらうためにも、このまちに誇りを持ち、「心のふるさと」として愛着を持ってもらうことも重要です。

以上のことから、大野城市の魅力などを市内外に積極的に発信していくとともに、多くの人に、このまちとこの地域を「心のふるさと」と感じてもらえるような取り組みを進めていくことを、大野城市のシティプロモーションとして位置づけていくこととします。

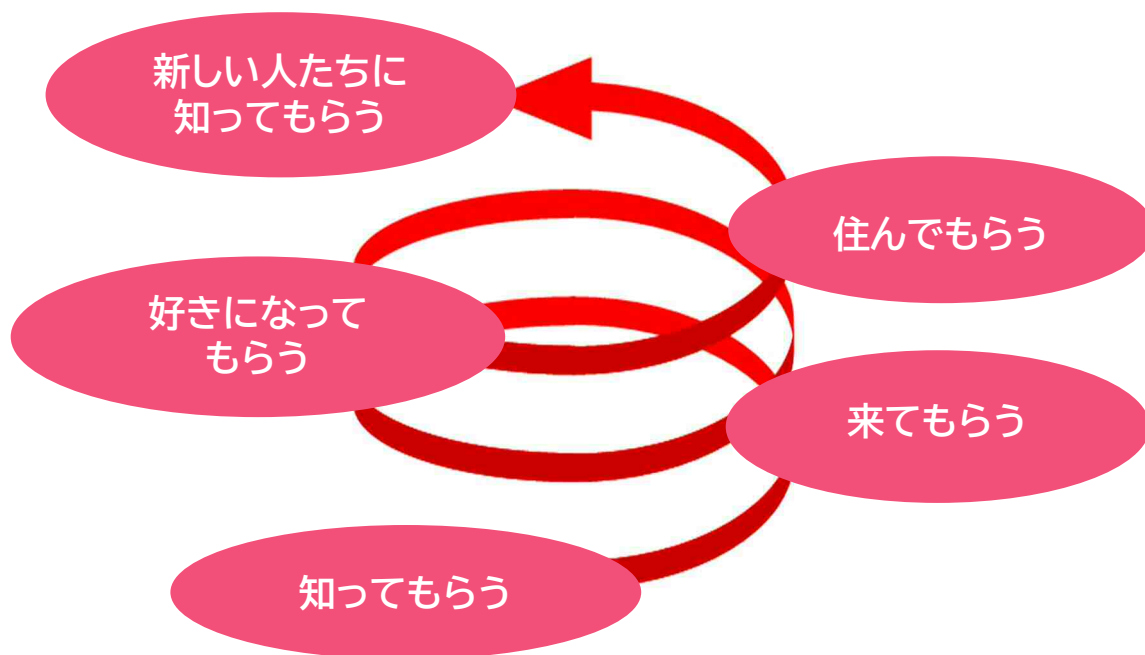


## (2) シティプロモーションの進め方と目標

大野城市におけるシティプロモーションは、地域資源を活かしながら、「知ってもらう」「来てもらう」「好きになってもらう」「住んでももらう」の各段階に応じた取り組みを展開することで、**「定住促進の好循環」の確立**につなげていく進め方とします。

そして、これらの**取り組みを進めていくことによって、「関係人口」(=大野城市との関わりをもつ人)、「交流人口」(=大野城市を訪れたり、大野城市で働いたりする人)、「定住人口」(=大野城市に住み続ける人)などの増加を実現していくことを目標**とします。

また、最終的には、大野城市に定住することとなった人たち(=市民)が、このまちの魅力を新しい人たちに伝えていくような、さらなる好循環の創出も狙うこととします。



### (3)3つの基本方針

以上の考察をふまえ、大野城市のシティプロモーション関連施策を進めていくにあたっての基本方針を、下記のとおり整理します。

#### 1. 魅力を伝える ～情報発信力の強化に向けて～

…まちの「認知度アップ」をめざす

#### 2. 「心のふるさと・大野城」を感じる ～ふるさと意識の醸成に向けて～

…まちの「愛着度アップ」をめざす

#### 3. 「まち」と「ひと」をつなぐ ～地域資源を活かして～

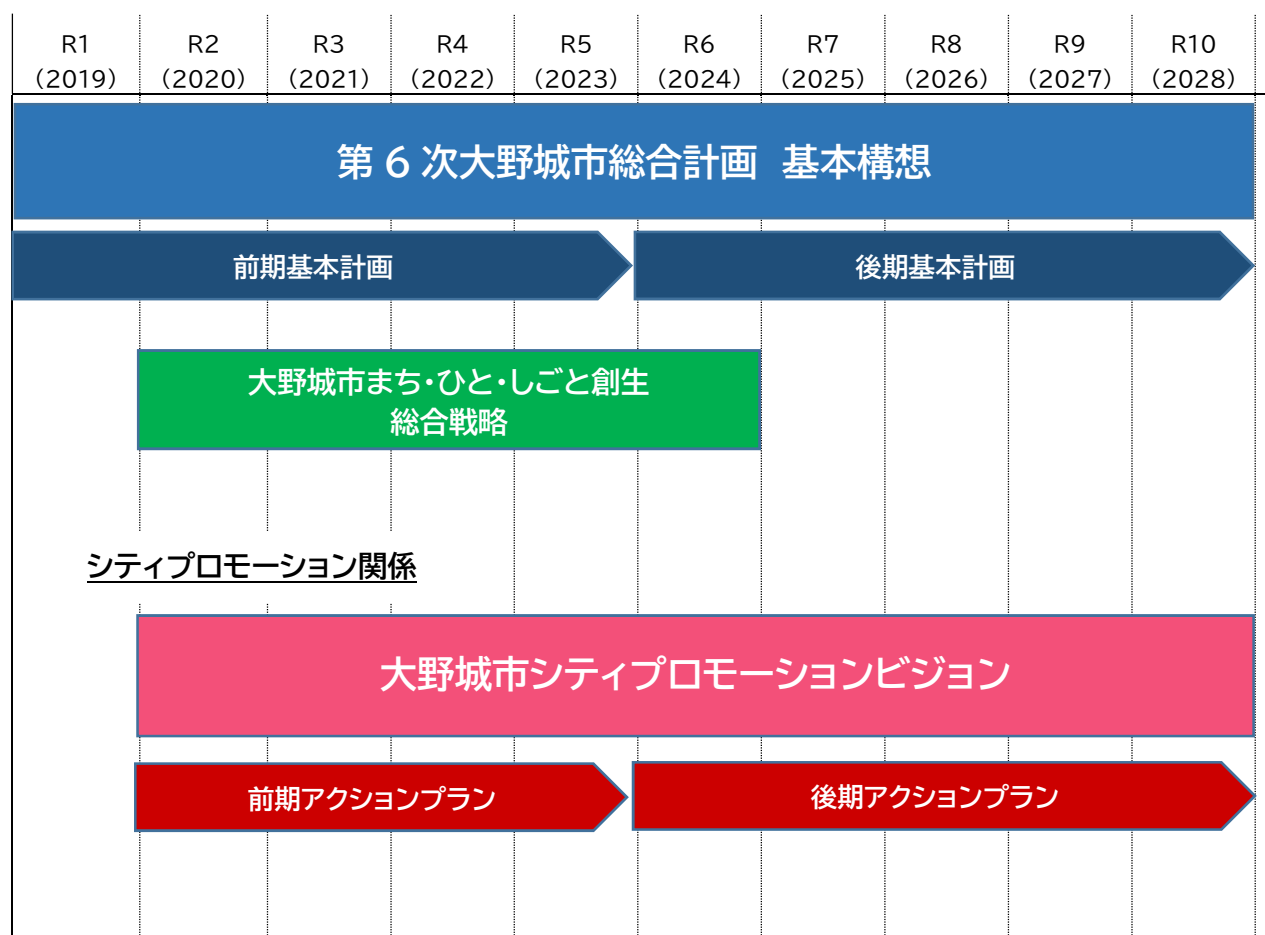
…まちの「魅力度アップ」をめざす

## 第2章 基本構想の具体化に向けて

### 1. アクションプランの策定

本ビジョンの3つの基本方針に基づいて進めていく具体的な取り組みについては、別に定める「アクションプラン」において示すこととします。

また、「アクションプラン」は、本ビジョンの計画期間のうち、取り掛かり時点となる令和2(2020)年度～令和5(2023)年度のを「前期アクションプラン」、その後の令和6(2024)年度～令和10(2028)年度のを「後期アクションプラン」とし、各期間内における「定住促進の好循環」に向けた取り組みをまとめていくこととします。





## 2. 取り組みの方向性

「前期アクションプラン」(令和2(2020)年度～令和 5(2023)年度)においては、取り掛かり時点の取り組みとして、このまちの「魅力(強み)」を発信していくことが特に重要になると考えられます。このため、「定住促進の好循環」のうち、**まずは「知ってもらう」「来てもらう」「好きになってもらう」取り組みを展開し、市内外に「大野城市のファン」を増やしていく**ことを目指します。

◆「前期アクションプラン」(令和2(2020)年度～令和 5(2023)年度)の目標

**「知ってもらう」「来てもらう」「好きになってもらう」取り組みの展開  
→市内外に「大野城市のファン」を増やす**

### <基本方針ごとの取り組みの方向性>

#### **【基本方針1】魅力を伝える～情報発信力の強化に向けて～**

多くの人に、大野城市の魅力を伝えていくためには、大野城市の魅力を「大野城ブランド」として確立することが重要です。また、様々なメディアなどを活用し、その「大野城ブランド」を積極的にプロモーションしていくことも重要であり、そのための情報発信力の強化を図ります。

さらに、従来行ってきた行政情報の発信などについても、発展・充実していくこととします。

#### **【基本方針2】「心のふるさと・大野城」を感じる～ふるさと意識の醸成に向けて～**

大野城市が将来にわたって「選ばれるまち」であり続けるためには、例えば、大野城市から一度は転出したとしても、「いつかはふるさとに戻ってきたい」と思ってもらうことが重要です。そのためには、市内外の住民などに対して、「心のふるさと・大野城」を感じてもらうための取り組みが不可欠となります。

その一環として、「大野城心のふるさと館」や「大野城まどかぴあ」などの拠点施設において、多くの人が、ふるさとの魅力を体験できる事業を展開するとともに、市外にもそれらを PR するなどして、大野城市のファンを市内外に増やしていくための取り組みを推進します。

### **【基本方針3】「まち」と「ひと」をつなぐ ～地域資源を活かして～**

大野城市には、市内に点在する多くの地域資源(自然・文化財・店舗など)があり、これらを活かしながら、「まち」と「ひと」をつないでいく施策の展開は、将来的な「関係人口」や「交流人口」を増やしていくための非常に重要な取り組みのひとつになります。

そのため、大野城市商工会や大野城市にぎわいづくり協議会などとも連携し、これら地域資源を周遊できる仕組みを向上させるとともに、市内外への PR を推進します。

## 第3章 資料

本ビジョンについては、外部有識者により構成された「大野城市まち・ひと・しごと創生有識者会議」と、庁内関係課職員で構成された「『(仮称)大野城市シティプロモーション戦略』等策定のための作業部会」から意見を聴取のうえ、策定しました。

### ◆大野城市まち・ひと・しごと創生有識者会議

#### ○委員名簿

氏名(敬称略)	所属	備考
花田 稔之	大野城市商工会 会長	座長
林田 スマ	(公財)大野城まどかぴあ 館長	
赤司 善彦	大野城心のふるさと館 館長	
安河内 俊明	(一社)大野城市にぎわいづくり協議会 会長	
松尾 恵美	九州朝日放送(株) 報道情報局マネジメントセンター チーフマネージャー	
三好 真代	ままいる 代表	
中村 明彦	大野城市企画政策部長	

#### ○開催日時・議題

	開催日時	議題
第1回	令和元年 8 月 2 日(金) 10:00~11:30	◆「大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」および「(仮称)大野城市シティプロモーション戦略」の位置づけ等について ◆基礎調査の概要について
第2回	令和元年 10 月 11 日(金) 10:00~11:45	◆「大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について ◆「(仮称)大野城市シティプロモーション戦略」について
第3回	令和元年 12 月 20 日(金) 10:00~11:45	◆「大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について ◆「(仮称)大野城市シティプロモーションビジョン」について

第4回	令和2年2月18日(火) 10:00~11:15	◆「大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について ◆「(仮称)大野城市シティプロモーションビジョン」について
-----	-----------------------------	---

## ◆「(仮称)大野城市シティプロモーション戦略」等策定のための作業部会

### ○メンバー

所 属	氏 名	所 属	氏 名
コミュニティ文化課	徳永 雄介	福祉課	福田 益光
ふるさとにぎわい課	大串 慶太	安全安心課	菱刈 優子
心のふるさと館運営課	鳩山 剣志	都市計画課	山神 真一
こども未来課	安地 沙織	連立・高架下活用推進室	今村 良平
子育て支援課	的野 祐士	教育政策課	佐藤 恵士
すこやか長寿課	小野 春奈	教育振興課	大淵 雄一郎

### ○開催日時・議題

	開催日時	議 題
第1回	令和元年7月26日(金) 15:30~16:30	◆「(仮称)大野城市シティプロモーション戦略」の構成等について ◆基礎調査の概要について ◆「本市のシティプロモーションの考え方」について
第2回	令和元年8月23日(金) 13:15~14:30	◆大野城市まち・ひと・しごと創生有識者会議(第1回)について(報告) ◆本市のシティプロモーションの考え方について
第3回	令和元年9月4日(水) 16:00~17:00	◆本市のシティプロモーションの考え方について ◆「ブランドメッセージ」について
第4回	令和元年9月26日(木) 13:15~14:30	◆「ブランドメッセージ」について ◆「主な取り組み」について
第5回	令和元年11月27日(水) 16:15~17:00	◆「(仮称)大野城市シティプロモーション戦略」骨子(案)について

第6回	令和2年1月10日(金) 16:15~17:00	◆「(仮称)大野城市シティプロモーションビジョン」(素案)について
第7回	令和2年3月5日(木) 16:15~17:00	◆「(仮称)大野城市シティプロモーションビジョン」(素案)について





大野城市シティプロモーションビジョン

令和2年3月

福岡県 大野城市

